



第7号 令和5年7月25日発行

 **社会福祉法人 和歌山つくし会**

本部 和歌山県和歌山市吉礼字八ツ井486番地の1  
TEL : 073-488-7470  
FAX : 073-478-1900

事務局 和歌山県岩出市中迫665  
TEL : 0736-69-1772  
FAX : 0736-69-5251



初代理事長 谷本千鶴先生の遺志を引き継ぎ、  
世の子どもたち、障がいのある方、  
社会的弱者のためにつくします。



## 基本方針

1. 人権尊重（子どもたちや利用者の視点を忘れずに）
2. 地域貢献（職員一人ひとりの責務として）
3. サービスの質の向上（医療・福祉サービスの向上に努めます）

## 特集 令和5年度和歌山つくし会の新体制と 地域に広がる「こども子育て支援事業」

### 1. 令和5年4月3日 辞令交付式

式 辞 谷本 美佐子 社会福祉法人和歌山つくし会 理事長  
宣 誓 職員代表 荒川 知子 つくし幼保園 副園長  
新入職員 ごあいさつ 林 音羽 つくし幼保園 保育教諭



### 2. 社会福祉法人 和歌山つくし会組織図

### 3. 新任挨拶

鈴木 啓之 つくし医療・福祉センター 院長  
飯塚 忠史 地域在宅支援センター センター長  
和田 万智子 和歌山つくし会 本部事務局 次長  
貴志 浩之 つくし医療・福祉センター 事務次長  
小浦 由加里 和歌山乳児院 院長  
宮井 陽子 和歌山乳児院 看護部長

### 4. 令和5年度 辞令交付者

### 5. 和歌山乳児院 バンビーニ広場 ・つくしホールの竣工 森下 宣明 和歌山つくし会 常務理事

### 6. 職員投稿

飯田 康人 つくし医療・福祉センター 療育課長  
栗山 佳央理 和歌山乳児院 里親支援専門相談員

### 7. つくしっ子連載

連載第4回 川野 琢也 つくし医療・福祉センター  
リハビリテーション課 課長

### 8. つくしっ子研修レポート 「ボバース 8週間講習会へ参加して」

北条 ひかる  
つくし医療・福祉センター 作業療法士

### 9. つくしっ子ニュース！！

岩出市長感謝受賞の喜び  
森下 宣明 和歌山つくし会 常務理事  
瑞宝単光章受章 記念祝賀会  
長谷 ノリ子 和歌山乳児院 元乳児部主任

### 10. つくしっ子インタビュー！ 「広瀬保育所からつくし医療・福祉センターへ」

坂本 理恵 つくし医療・福祉センター サービス管理責任者

### 11. つくしっ子レポート 4年ぶりの「春の遠足！」

広瀬幼保園

### 12. つくしっ子 もふもふニュース！！ 「3匹にゃんこと生きる！！」

中谷 政紀 つくし医療・福祉センター 事務部長

### 13. 編集後記



## 令和5年度 辞令交付式 式辞

社会福祉法人 和歌山つくし会 理事長

谷本 美佐子

皆さまは今日から和歌山つくし会の一員となります。おめでとうございます。

ご存じのように和歌山つくし会には「和歌山乳児院」「つくしの里こども園」「広瀬幼保園」「つくし幼保園」そして「つくし医療・福祉センター」の5つの代表的な施設がございます。

3年前よりのコロナ禍におきましては、全ての施設が大変な状況を共に乗り越えてきました。幼保園や保育所では感染対策を行いながら子どもたちの発達に合わせた催しが工夫して行われ、つくし医療・福祉センターでは院内感染の折も職員全員が力を合わせて利用者の命を守りました。和歌山つくし会はそのように底力のある各施設によって成り立っております。

当法人は創設者である谷本千鶴初代理事長の遺志を引き継ぎ、「つくす」という理念を掲げてございます。それは、この法人の職員として利用者とその家族のために一生懸命働いて皆さんに笑顔になって頂くことです。また、この理念は職員の一人ひとりが自分にとって「つくす」とはどういうことか、またチームや施設単位でも考えて頂くことが必要となります。

そして基本理念に「人権尊重」「地域貢献」「サービスの質の向上」この3つの柱を掲げており、各施設は「明るく、温かく、安心な施設」を目指しております。

和歌山つくし会は、創業以来70年が経過しました。社会福祉法人としては50年以上の歴史があり、2019年11月に50周年記念式典を行いました。

昭和32年に開院しました「和歌山乳児院」は中でも最も歴史のある施設です。その後66年の間に子どもたちを取り巻く社会の状況は当時と比べると随分と変わりましたが、子ども子育て支援事業や里親支援事業と共に、ますますその重要性が増している施設であり、子どもたちを守る最後の砦となっています。

昭和43年に開園した「岩出療育園」は昭和51年開園の「桃山療護園」と合併し、平成20年に現在の「つくし医療・福祉センター」となりました。重症心身障害児・者の入所施設の他に、近年著しく増加している発達障害支援の外来治療、訪問看護、介護、ショートステイなどの地域在宅支援のための総合的なサービスを提供しています。地域における障害福祉・医療の重要な拠点として、今後一層の地域貢献と事業の充実が望まれています。

広瀬幼保園、つくし幼保園は全国でも先駆けて幼保連携型の認定こども園となりました。

保護者の就労と養育の両立を手助けし、よりきめ細かい保育を提供することにより、就学前の子どもたちを守り、育てる第2の家庭でもあると言えます。

今後、社会福祉法人の地域における役割は益々重要なものとなってまいります。  
障がいのある方もない方も共に生きることの出来る社会を目指し、福祉から取り残される方々  
のないように、現在の入所事業、通園事業と共に一層の地域貢献を行ってまいりますことが和歌山  
つくし会の目標です。

そのためにも、今一度組織を見直し、独自の経営基盤を固めることが重要となります。  
皆様のご意見も取り入れながら、今後も未来の福祉の心を共に紡いでまいりたいと思います。  
本日は誠にありがとうございます。



## 宣誓 職員代表

つくし幼保園 副園長

荒川 知子

本日の辞令交付式にあたり誠に僭越ではございますが、職員を代表致しましてご挨拶させて  
頂きます。

只今、理事長先生より大変有難いお言葉を頂きましたが、そのお言葉を心の糧とし、和歌山  
つくし会の理念である「つくす」を常に肝に銘じ、皆さまのご期待に添えるよう努力し、また、  
利用者さんの笑顔と幸せのために力をつくしてまいりたいと思っております。

私達はまだまだ未熟ものでございますので、力及ばない部分もあるかと思いますが、和歌山つ  
くし会職員としての自覚と責任を持って日々邁進してまいりますので、どうぞこれからもご指導  
賜りますようお願い申し上げます誓いの言葉とさせていただきます。

令和5年4月3日







## 「新入職員ごあいさつ」

つくし幼保園 保育教諭

林 音羽

今年の3月に短期大学を卒業し、今まで共に切磋琢磨してきた仲間と離れ、それぞれの道に進みました。私はこの4月からつくし幼保園でお世話になっています。

当初は、これから始まる社会人生活に対して「こんな未熟な私でもやっていけるだろうか」と不安と緊張の気持ちでいっぱいでした。

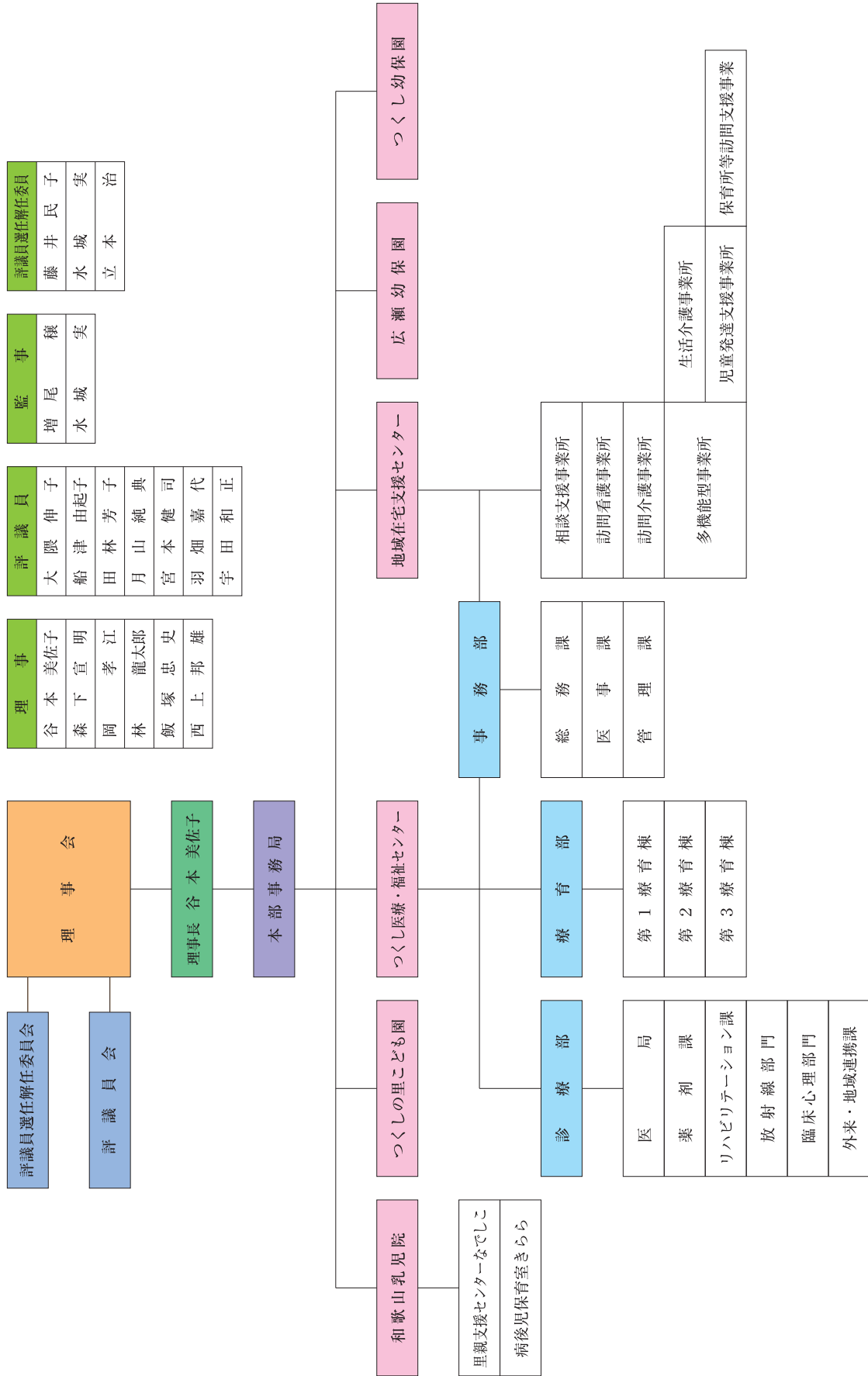
しかし、いつも優しく見守り、そして丁寧に指導してくださる先輩の先生方のおかげで、今では新しい環境にもすっかり慣れ、毎日楽しく保育することが出来ています。「私もこんな保育者になりたい」と思えるような先生方の近くで働くことが出来ることに日々感謝の気持ちでいっぱいです。

そして、とにかくがむしゃらに1日1日を過ごしていると、入職してからあっという間に3カ月が経ちました。この3カ月間、子どもたちと関わっている中で、はじめは目の前の出来事で手一杯でしたが、最近は「あの時こんな風に接してあげた方が良かったなあ」「こんな声掛けをしてあげた方が良かったなあ」と反省がたくさん浮かんできます。まだまだ保育者として至らないところがたくさんあり、子どもたちやその保護者にも迷惑を掛けてしまうこともあります。日々の反省を活かし、子どもたちの成長を見守り支えながら、私自身も「先生」としてもっともっと成長していきたいと思います。

子どもたちの笑顔は今の私の元気の源です。未熟で至らないところもありますが、これからも精一杯頑張っていきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



# 社会福祉法人 和歌山つくし会 組織図



## 新 任 挨 拶



### 「つくし医療・福祉センターの 院長に就任して」

つくし医療・福祉センター 院長

鈴木 啓之

令和5年4月1日付で、つくし医療・福祉センターの院長を拝命致しました。長く院長を務められてきた飯塚忠史先生の後任として重責を担うことになりました。どうかよろしくご指導お願い申し上げます。

さて、2020年2月からの約3年間、新型コロナウイルス対策に多大なエネルギーを費やし、つくし医療・福祉センターにおいてもそれぞれの分野で感染対策に追われてきました。ようやく、2023年2月後半以降、第8波も沈静化し、5月からはこの新型コロナウイルスは2類から5類感染症に変更されました。この3年間の皆さまが被った物心両面の負担、そして当センターにも押し寄せた様々なダメージからできるだけ早急に回復軌道へ乗せることが、まず私に課せられた大きな責務だと感じております。

医療・福祉の世界は日進月歩であり、この分野に身を置く我々は、常に新たなツールを使いこなせると同時に新たな発想が求められます。“以前と同じを良しとする姿勢”ではなく、変化・進歩する医療・福祉を意識しつつ、“常に新しい何かを求める向上心”を持った姿勢で何事にも取り組むことが求められます。特に、浸透しつつある在宅医療ケア、また重症化する施設入所児者など変貌する医療・福祉領域の状況においては、より一層新たな発想・切り口が求められています。我が法人の理念である“つくす”を念頭に、それぞれの立場にある職員皆さまの知恵を結集して情報を共有し、つくし医療・福祉センターの総合力を活かして次世代にマッチしたつくし医療・福祉センター構築に全力で取り組んでまいりたいと考えています。何卒、よろしくご支援・ご指導をお願い申し上げます。



## 「地域在宅支援センター センター長就任あいさつ」

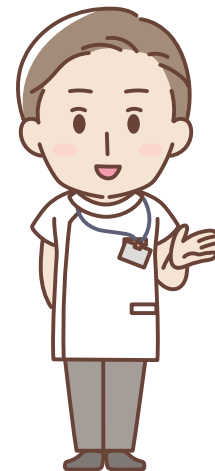
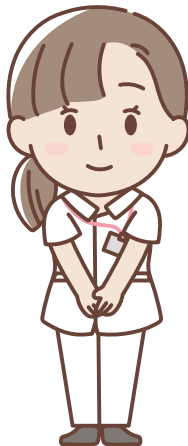
地域在宅支援センター センター長

**飯塚 忠史**

当センターは和歌山つくし会の在宅障害児者支援部門で、訪問看護・訪問介護ステーション、多機能型福祉事業所（児童発達支援、生活介護、保育所等訪問支援）、相談支援事業所・地域連携の各事業所で構成されています。

私は11年前在宅医療の現場で働きたいと思って、紀北分院からつくし医療・福祉センターへ転職してきました。今回の異動はこの希望に沿ったものであり、人生の最後に花を咲かせるチャンスだと感謝しています。

在宅障害児者の支援の中心は訪問看護・介護であると思います。訪問看護と介護を在宅部門の中核に育てることが第1の目標です。相談支援・地域連携は和歌山つくし医療・福祉センターにおける重要な窓口であり、在宅部門と入所部門の潤滑油であるとともに、現在、全国各地で立ち上げが進む「医療的ケア児支援センター」と連携する支援の情報センターです。多機能事業所は重度の障害（医療的ケアを含め）を持つ方の在宅生活を支える重要な支援の1つです。いずれも非常に大切な部門であり、和歌山県全体の障害児者医療の方向に影響を与える可能性が大きいものと考えています。今、私は初心に戻ってウキウキ・ドキドキしているところです。よろしくご指導ご鞭撻ください。





## 「ごあいさつ」

和歌山つくし会 本部事務局 次長

**和田 万智子**

この度、岡 前本部事務局次長の後任として、本部事務局次長を拝命いたしました。

今、改めて「事務局次長」という肩書きの重さを痛感しております。

4月から、各施設からの様々な書類を見せて頂いていますが、まだ施設の運営内容等々わかりにくい部分も多く、勉強が必要だと感じております。

また会計については、ここ2、3年は新型コロナウイルスの関係で、通常行っている事業のやむを得ない抑制による収入の減、感染防止対策や感染時に必要な衛生用品や消耗品の購入による支出の増加となっています。また、ロシア・ウクライナ戦争の影響による物価高騰など、予期せぬ事態も起こっています。今後このような事態に備え、事業にかかる収入・支出を見直し、和歌山つくし会がなお一層安定した経営の中で、充実した質の高いサービスの提供ができるようになればと考えます。

私自身、まだまだ知識、経験不足ですが、まずは私のできることを誠実におこなっていこうと決意しております。引き続きご指導ご協力を頂きますようよろしくお願い致します。



## 「ごあいさつ」

つくし医療・福祉センター 事務次長

**貴志 浩之**

2023年4月より事務次長に就任致しました。貴志浩之と申します。

今回、このような役職を仰せつかりまして、責任の重大さに身の引き締まる思いです。

事務部の役割はスタッフが円滑に仕事をするための裏方であり、色々な事例に臨機応変に対応することが必要であると考えています。

これまで培った経験をもとに、これから、中谷事務部長と一緒につくし医療・福祉センターをサポートしていきたいと考えております。

まだまだ若輩者ですので、私の力では及ばない部分もあるかと思いますが、努力を惜しまず精進していきたいと思っております。

微力ながら、今後もつくし医療・福祉センターの発展のために力を尽くしていきたいと思しますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。





## 「和歌山乳児院 院長就任ごあいさつ」

和歌山乳児院 院長

小 浦 由加里

この度、前任の和田院長の後を引き継がせていただき、和歌山乳児院の院長を拝命致しました小浦由加里です。

乳児院へ異動して早いもので3ヵ月が過ぎました。長年、看護管理業務に携わってきましたが、こちらでは施設運営全般を任されているため、経験のない業務や書類の取り扱いばかりで日々頭を抱えながら試行錯誤する毎日です。しかし、森下センター長や前任の和田院長にフォローして頂きながら日々勉強させて頂き、こうして業務に励むことができている事に対し感謝致しております。

和歌山乳児院は、昭和32年に和歌山市森小手穂において開院されました和歌山つくし会の最も歴史のある施設です。現在、和歌山乳児院とつくし医療・福祉センターは駐車場を挟み同じ敷地内にありますが、これまでは交流も少なく、お互いにあまり知らなかったということに気づきました。

例えば「病後児保育事業」や「里親支援センターなでしこ」「産後ケア事業」等、乳児院の中でいろいろな事業があることを耳にはしていましたが、乳児院に赴任してからより詳しく知ることが出来ました。そこで早速、広報活動の一環として、センターで行われる課長会で「病後児保育」について説明を聞いて頂き、数名の方と契約を結ぶことが出来ました。「こんな近くに病後の子どもを預かってくれる施設があったとは知らなかった」「是非、利用させてもらいたい。助かります。」と喜んでくださる職員さんもいました。このように同じ和歌山つくし会として、和歌山乳児院とつくし医療・福祉センターがもっとお互いのことを知り、連携や交流が図れるようになればと考えています。

また、乳児院の子どもたちの成長・発達を見守りながら、安全・安心を第一に家庭的な雰囲気の中で、日々笑顔で過ごせる環境を看護部長やスタッフと共に作っていきたいと思っています。

今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



## 「乳児院で働くこと」

和歌山乳児院 看護部長

**宮井 陽子**

前任の上山看護部長の後を引き継がせていただき、令和5年4月1日付けで看護部長に就任しました宮井陽子です。

昨年まで約20年、「つくし医療・福祉センター」で勤務し、障がい児・者の方のケアに携わってきました。今回、乳児院への異動の話をしていただいたとき、最初は正直、戸惑いや不安がありました。乳児院はさまざまな理由で保護を必要とする乳幼児を集団生活の中で保育士、看護師、家庭支援専門相談員、栄養士、心理士など多職種の専門職員が24時間365日の養育を行っています。24時間ケアをする所で、子どもたちにとってはここが生活の場です。子どもたちにとっていかに大事な環境であるかを考えなければなりません。

3か月が経ち、スタッフの方々に助けて頂きながら、生活の場ということを大切に子どもたちと接してきました。今はその責任を感じることはもちろん、子どもたちが安心して元気に笑顔で過ごしていることに、大きな喜びを感じています。

研修にも参加させていただき、「愛着形成」と「豊かな生活の保障」が子どもの養育にいかに大切かということも学びました。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、この3年の間、子どもたちの生活は制限されることが多かったと思います。今年5月からは2類から5類感染症となり、制限も緩和されました。これからも健康管理をしっかりと行い、子どもたちが多くのことを経験・体験し、発達成長していけるよう、努力していこうと思っています。

これからもご指導よろしくお願い致します。

## 辞令交付式 辞令交付者

### 新規採用

なす	みゆき		
那須	美由紀	和歌山乳児院	看護師
はやし	おとわ	つくし幼保園	保育教諭
林	音羽		
みの	ゆうひ	つくし幼保園	保育教諭
箕西	優日		

### 昇格

わだ	まちこ	本部事務局	次長
和田	万智子		
こ	ゆかり	和歌山乳児院	院長
小浦	由加里		
みや	ようこ	和歌山乳児院	看護部長
宮井	陽子		
あさ	もとみ	和歌山乳児院	乳児部主任
朝間	素美		
やま	みの乃	和歌山乳児院	保育士（契約職員）
山崎	美乃		
あら	ともこ	つくし幼保園	副園長
荒川	知子		
す	かほ	つくし幼保園	保育教諭
須佐	圭穂		
くわ	あい	つくし幼保園	保育教諭（契約職員）
桑添	愛加		
すず	ひろゆき	つくし医療・福祉センター	院長
鈴木	啓之		
き	ひろゆき	つくし医療・福祉センター	事務次長・医事課長兼務
貴志	浩之		
まえ	じゅんこ	つくし医療・福祉センター	療育課長
前原	淳子		
はま	けいこ	つくし医療・福祉センター	看護主任
濱口	恵子		
さか	りえ	つくし医療・福祉センター	サービス管理責任者
坂本	理恵		
いい	ただし	地域在宅支援センター	センター長
飯塚	忠史		
はら	まさみ	地域在宅支援センター	
原田	匡美		
		訪問介護ステーションつくしの里	管理者兼サービス提供責任者
きた	ともこ	地域在宅支援センター	
北尾	朋子		
		多機能型福祉事業所つくしの里	児童発達支援管理責任者

## 和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホールの竣工



社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

**森 下 宣 明**

令和5年7月20日、岩出市川尻の地に、和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホールが完成し、里親支援センター「なでしこ」の事務所として新たな歴史を刻み始めます。

法人にとって、長年の間、懸案だった用地に、令和6年度の児童福祉法改正により、第2種社会福祉事業に位置づけられるフォスタリング機関として、一足先に、事業所を構えることになりました。

平成29年8月に発表された「新しい社会的養育ビジョン」に盛り込まれた3歳以下の乳幼児の里親委託率75%の達成に向けて、和歌山県でも社会的養育推進計画を作成し、その実現に向けた「里親委託加速化プラン」にも取り組んでいます。

しかし、こうした机上の空論はさておき、実際に里親をしながら、里親支援センター「なでしこ」を立ち上げ、里親会の事務局を引き受けて、特別養子縁組をされた子どもたちや里親家庭で生活している子どもたちの悩みや葛藤に関わり、出自や生い立ちの整理（ライフストーリーワーク）をしていると、大人の身勝手さに振り回される子どもたちの苦悩が身に沁みます。

自分は何故、実親のもとで育てられなかったのか。

自分は何故、この家に来たのか。

実親はどんな人で、今、どこにいるのか。

会いたい、会いたい、会いたい・・・。

里親支援センター「なでしこ」は、バンビーニ広場、つくしホール、心理相談室を備えていて、これらの子どもたち、里親、ファミリーホームの支援の拠点となります。

ひとりでも多くの社会的養護の必要な子どもたちの心の拠り所となるよう、職員一同、力を合わせて頑張ります。

散歩やウオーキング等、お近くにお越しの際は、是非、お立ち寄りください。バンビーニ広場でのんびりと空を見上げたり、研修会等の会場に「つくしホール」もご活用ください。皆様のお越しをお待ちしております。

## 職 員 投 稿



### 重心認定看護師として

つくし医療・福祉センター 療育課長

飯 田 康 人

2016年5月、当時の療育部長より強く勧めていただきまして、『日本重症心身障害福祉協会 協会認定重症心身障害看護師』の資格を取得しました。名称がすごく長いので以下、『重心認定看護師』と致します。

重心認定看護師とは、重症心身障害の看護分野における専門的な知識・技術を理論的に探究し、質の高い看護実践活動と指導的役割を果たす人材を育成するため、2012年に作られた認定制度です。教育機関は全国で7か所開設されており、私は近畿地区の第5期生として、12単位（180時間）の受講（座学）と施設研修、小論文、看護研究にも取り組み、認定を取得しました。文章の冒頭でも強調している通り、認定研修への参加を決めた時は、正直前向きな気持ちではありませんでした。しかし、受講開始から取得、現在に至るまでの7年間を振り返ると、たくさんの貴重な経験や自己研鑽できる機会を頂けたことに今では感謝しています。

研修会の講師は、近畿地区の重心施設の名だたる先生方でした。それぞれの先生の専門分野について熱のこもった講義を受け、重症児（者）看護に特化した学びを深めることができました。

研修会場は主に旧山西会館でしたが、それ以外にも、びわこ学園や大阪発達総合医療センターなど施設での研修も多く、それぞれの施設が大切にしている理念や取り組みを肌で感じる事が出来ました。余談になりますが、研修日の夜は交流会と称して飲み会を行い、盛り上がったことは楽しい思い出です。

認定取得後、センターにおいて教育に携わるのはもちろん、地域の方々に重心施設を知ってもらうための取り組みも行ってきました。例として、近隣の中学校で「障害者理解」を深めるための出前講座を行いました。また、看護学校においては、小児看護のカリキュラムとして、「障害を持つ子どもと家族支援」についての講義を例年行っています。

重心認定看護師になっての一番の強みは、やはり他の重心施設で働く仲間との横の繋がりです。他施設の現状を聞くことができたり、自施設での困りごとを気軽に相談できる関係は大きな財産です。

現在、つくし医療・福祉センターには3名の重心認定看護師が在籍しています。重心認定看護師には、重症児（者）看護の魅力スタッフに伝えるという役割があります。また、入所者だけでなく、地域で暮らす医療的ケア児や介護者のニーズに目を向けることも大切であると考えています。これからも、重心認定看護師として学んだことを活かし、重症児（者）を取り巻く現状や課題を俯瞰的に見るように心掛けていきたいと考えています。





## 「祖母は私の大先輩！！」

和歌山乳児院 里親支援専門相談員

栗山 佳央理

私は大学卒業後、JAに就職し金融の窓口業務に携わっていました。お客様と接する仕事に誇りを持って働いていたのですが、販売促進のノルマがあり、ご高齢の方が私のためにと協力してくれることに申し訳なさを感じ、転職を真剣に考えるようになりました。

そして、転職するなら保育士の資格を活かせる職業に就きたいと思い、和歌山乳児院の試験を受けました。試験のクレペリン検査には苦戦しましたが（笑）、2015年4月から乳児院で働けるようになり、つくし会の創設者が谷本千鶴先生と知りました。

谷本千鶴先生の名前に見覚えがあり記憶を辿ったところ、祖母が生前過ごしていた部屋に飾っている表彰状で見たことを思い出しました。

父に聞くと、昔、祖母は桃山療護園で働いていたとのことで、まさか、祖母が私の先輩だったなんて…驚きと同時に、不思議な縁を感じました。

祖母は桃山療護園の仕事にとってもやりがいを感じると話していたそうで、職種は違いますが、私も祖母と同じ気持ちです。

乳児院には、様々な理由で家族と一緒に暮らすことの出来ない子どもたちが生活をしています。そんな子どもたちの寂しさが少しでも癒えるよう、“保育士”という気持ちよりも、“母親”のような気持ちで働いています。

そして、2022年4月からは里親支援専門相談員として、子どもと里親さんのご縁を繋ぐ素晴らしい経験をさせて頂き、現場とはまた違うやりがいを感じています。

遠い未来…私の孫もつくし会で働かせてもらう日が来るかもしれません。

「栗山さんええ人やったで～」と言ってもらえるよう、つくし会の理念“つくす”心を常に忘れず、子どもや里親さんに寄り添った支援ができるよう、精一杯頑張ります！！

## つくしっ子連載



## 連載 第4回

## 「イタリアで見つけた共生社会のヒント」

つくし医療・福祉センター リハビリテーション課 課長

川野 琢也

2019年度地域コアリーダープログラム（障害者分野）で視察や訪問したところは16か所になります。その16か所の中でも印象に残っている訪問先について記したいと思います。前回の連載第3回でも紹介したフルインクルーシブ教育が行われているローマの学校現場も印象的だったのですが、今回はミラノにある「視覚障害研究所」について記したいと思います。

視覚障害研究所（写真1）はもともと視覚障害児のための全寮制の特別支援学校（盲学校）で、1840年に創設されイタリアの点字教育の普及に努めてきた歴史ある場所でもあります。1977年の特別支援学校制度が廃止されるまでは350～400人ほどの子どもが共同生活をしていました。特別支援学校が廃止された後は、①フルインクルーシブな地域の学校としての役割と、②障害児のデイサービスや高齢者施設としての役割と、③視覚教育や啓発などに関する研究所という3つの複合施設として機能しています。研究所は視覚障害のある子どもに対する教員養成の拠点であり、また教材の開発や点字本の作成や出版を担っています（写真2）。啓発は視覚障害関連のミュージアムがあったり（写真3）、視覚障害の体験ができる「ダイアローグ・イン・ザ・ダーク（写真4）」を運営しています。このダイアローグ・イン・ザ・ダーク（直訳すると「暗闇の中での対話」）は、視覚障害児者に対する偏見をなくすための取り組みとして行われており、私たちが訪れた2019年時点で250万人の方が訪れ体験しているとのことでした。どのようなプログラムになっているかというと、白杖を渡されて真っ暗闇の中を、全盲の視覚障害のアテンドとともに歩いていきます。アトラクションの中は完全に光がなく漆黒の空間になっており、いわゆる目が慣れて少し見えるようになってくることもないので、視覚情報を完全に喪失した全盲の視覚障害者になった状態となります。参加者が一列になって、前方のメンバーの肩を右手でつかんで行き先（方向）を確認しつつ、左手には白杖を持って周囲や足元を確認しながら進んでいきます。暗闇の中を少し進むと森の中が再現されており、ふかふかの落ち葉の上を歩き、周囲には木の幹や枝葉があり、鳥の声や小川のせせらぎが聞こえてきました。視覚情報が頼れなくなると、人は他の感覚（聴覚・触覚・嗅覚・固有受容感覚など）を敏感に働かせて周囲の環境を探索するようになると実体験しました。白杖の先端がまるで自分の手先になったように障害物がないか探ったり、足のつま先でも同様に周囲の環境がどうなっているのか、足場はあるのかなどを探索し始めました。つり橋を渡り、さらに進むと小屋のようなところにたどり着きました。設置されたベンチに腰を掛け、飲み物をオーダーしました。全盲のアテンドの方が奥のキッチン（？ とにかく何も見えていないのでキッチンかどうか分からないのですが、カチャカチャ用意している音が聞こえてきました）で準備をして順番に運んでくれました。

こんな真っ暗闇の中で私たちのグループメンバーがどこに誰が座っているのかや、数種類ある飲み物を作って間違わずに運んでくれたアテンドさんに驚きました。私たちはこのように飲み物だけを頂く体験でしたが、コース料理を食べたり観劇鑑賞をするプログラムもあるとのこと。

このように全盲の視覚障害者を体験することで、視覚障害者の日常生活について考えたり、視覚以外の感覚を認識してそれに頼るいい機会になったのはもちろんですが、それ以上に気付かされたことがありました。それは人は誰かに支えてもらったり、逆に支える側になったりして日常生活を営んでいるということです。暗闇の中を一列に並んで歩みを進めているときに感じたのですが、私は前の人の肩を頼りに歩みを進め、後ろの人はまた私の肩を頼って歩みを進めている。これは社会においても同じではないかということです。ダイアログ・イン・ザ・ダークで名の通り暗闇の中で対話をし、共生社会のヒントを得ることができました。ちなみにこのダイアログ・イン・ザ・ダークは日本でも体験ができるので興味のある方は調べてみてください。



写真1 視覚障害研究所



写真2 様々な教材



写真3 博物館に展示しているヘレンケラーが使ったタイプライター



写真4 ダイアログ・イン・ザ・ダークの入口 (右の黒いカーテン)

## つくしっ子研修レポート



### 「ボバース8週間講習会へ参加して」

つくし医療・福祉センター 作業療法士

北条 ひかる

令和5年1月10日～3月3日の8週間、大阪市城東区にあるボバース記念病院へボバース概念を学ぶための講習会に参加させて頂きました。

ボバース概念というのはイギリスのボバース夫妻（故人）が提唱した、人は生まれながらにして二足直立姿勢のプログラムを世襲財産として持ち合わせており、障害によって歩行が難しい患者様に対して歩行に必要な要素の訓練をしていくといった概念・手技になっています。

今回、社会人になってから8週間という期間、勉強だけに時間を注げる機会を頂けたことに本当に感謝しています。学生時代から気になっていた研修であったため、念願が叶いました。

8週間の長期出張ということで、様々な講義・実技等について学ぶ機会を得ました。具体的な内容の一つとしては、子どもの胎児期から乳児期にかけての正常発達について学びました。臨床の中で脳性麻痺や発達障害のお子さんに関わる機会が多く、そのお子さんの中には正常発達よりもゆっくりと発達していく方がたくさんいます。そのため、正常発達を知ることで、担当のお子さんが現在どの発達段階で躓いていて、次にどの段階を目指していくことが必要かを改めて考えることができるようになりました。また、セラピストの先生方だけでなく医師や公認心理師の先生方からの講義もあったため、自分の持っていた視野はさらに広がり、他職種からの視点についても知ることができました。今までは作業療法士として、上肢や手、視覚機能についてアプローチすることが多く、評価や観察の視点に偏りがありましたが、多職種の視点を活かし、利用者様に対して多方面から治療を提供し、理学療法士や言語聴覚士、医師、看護師、介護士、保育士など他職種とのチームアプローチを円滑にできるように励みたいと思います。

今回、受講生では作業療法士が私一人であったため、意見を求められることも多くありました。

その中で視覚機能についてディスカッションする機会があり、全国各地から来られている受講生の方たちと話す中で気付いたことがありました。それは、他施設のセラピストの先生方の中でほとんどの方が視覚機能についてあまりご存じないことを知りました。つくし医療・福祉センターのセラピストは盲学校の先生方との繋がりもあり、新人研修の中にも含まれているので、つくし医療・福祉センターでは視覚機能についての基礎知識を学べる恵まれた環境にあるのだなと嬉しく思いました。



現在は、研修で学んできて活かせる部分と元々持っている自分の知識や技術を合わせながら利用者様にどのように還元していこうか日々考えています。

研修中に学んだ一人ひとりの利用者様にとって生活の質が向上できるように丁寧に関わり、深く考えられるセラピストでありたいと思います。





## つくしっ子ニュース！！



## 令和4年度 岩出市長感謝受賞の喜び

社会福祉法人 和歌山つくし会 常務理事

森 下 宣 明

この度、思いがけず、保健予防事業推進功労者として、岩出市長様より感謝状を頂きましたこと、身にあまる光栄と存じます。

この賞は、理事長様はじめ皆様のご指導とご協力があってこそこの賞だと思っております。

思い起こせば、昭和55年6月1日、岩出療育園第2病棟増築に合わせて、林参与達とともに指導員として採用され、和歌山乳児院施設長、桃山療護園事務長、岩出療育園事務長、和歌山乳児院施設長を歴任し、無事定年まで勤めあげることができ、ほっとしたのも束の間、引き続き里親支援センター「なでしこ」のセンター長、法人本部事務局長の重責を兼ねることになりました。

現在は、和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホールの完成を間近に控え、里親支援センター「なでしこ」の移転や竣工式の準備に明け暮れています。

コロナ禍で制約され続けた日々も、徐々にではありますが元に戻りつつあります。

これからも、初心を忘れることなく、子どもたちや利用者の皆様に「つくす」ことを一番に、力を尽くしてまいりたいと思います。

最後になりましたが、本当にありがとうございました。



## 長谷 ノリ子さん 瑞宝単光章受章 記念祝賀会

令和5年3月30日に和歌山乳児院 元乳児部主任 長谷ノリ子さんの瑞宝単光章受章の祝賀会が開催されました。長谷さんの受賞をお祝いするため、たくさんの方が駆け付けてくださいました。

長谷ノリ子さんは平成4年に和歌山乳児院に入職され、大変愛情深く子どもたちに接していただき、その上とても勉強熱心で定評のある職員さんでした。

長谷さんは人材育成や感染対策などにも熱心に取り組まれ、長年にわたる献身的なご努力は内外からも認められ、何よりも子どもたちが安心して過ごすことのできる和歌山乳児院の環境作りに力を注いでくださいました。

令和5年3月で定年を迎えられましたが、今後も次の世代にいろいろと教えて頂きたいと思います。



## つくしっ子インタビュー！！



### 「広瀬保育所から岩出療育園、 そしてつくし医療・福祉センターへ」

つくし医療・福祉センター サービス管理責任者

坂本 理恵

1. 坂本さんは今年度、3階のサービス管理責任者、いわゆる「サビ管さん」になられたそうですね。どのようなお仕事をされているのでしょうか？

サービス管理責任者の役割は、利用者のニーズに合わせてより質の高い障害福祉サービスを提供するための「まとめ役」のような仕事です。例えば個々のサービス利用者のアセスメント、個別支援計画の作成、利用者、家族に対する説明、その他サービス提供者に対するアドバイスなどもあります。

2. 大変な点、また楽しい点はどういうところでしょうか？

家族の方とのかかわりなどは、馴れていないと大変かと思います。

家族の方は不安な気持ちで様々な質問をしてくださいますので、それにきちんと耳をかたむけ、理解する、そして状況の説明が出来る、ということが難しい点の一つであると思います。

4月にサービス管理責任者になってから、以前に広瀬保育所で保育士をしていた時のことを思い出しました。保育所では子どもさんに何かあると、保護者の方に対応したり説明したり、ということが日常的にあったので、その時のことを考えますと相手の方の身になって話を聞く、相手の方と一緒に考えるということでは当時の経験が今役立っているように思います。それから一つ気になることがあります。

高齢の家族の方がセンターに電話をしてこられた時に、音声ガイダンスの何番を押したらよいのか分からない、と言われる時があります。それで、電話がたらい回しになってしまったことがあります。それについては考えて頂く必要があると思っています。

楽しい点は、サービス管理責任者の仕事をする事によって、今まで見えなかった申請や受給書類の手続きや、県や国の制度などが見えてきたことです。現場にいるときは障がいのある方々に関わる仕事が毎日とても充実していましたが、現場以外にも入所者の方を支えている多くの人々がいて、制度に基づいて運営されているということがわかってきました。今、それがとても新鮮に感じられます。



### 3. 和歌山つくし会にはいつ、どんな経緯で入職されましたか？

(思いがけないご縁で広瀬保育所からセンターに異動されたとうかがいしましたが、、、)

21歳で、広瀬保育所に入職し、13年間保育士として仕事をさせて頂きました。

実は私、介護福祉士の資格の他に保育士、調理士の資格も持っています。何でも興味があります。(笑)

その後、現在の和歌山乳児院の場所に新しく「認定こども園」を建設するという計画が持ち上がり、そちらに異動して欲しいというお話を頂きました。まだ認定こども園が出来ていなかったため、まず、つくし医療・福祉センターの前身の岩出療育園に異動になりました。

ところが、待てど暮らせど認定こども園が出来なくて、、、(どうやら、地元の幼稚園からの猛反対により、建設計画が中止になったようです。)

それで、そのまま岩出療育園に居座ることになりました。(笑)

### 4. すごい変化ですよね、当時の和歌山つくし会はどうでしたか？

岩出療育園には2年くらいいました。その後、岩出療育園と桃山療護園が合併になり、現在のつくし医療・福祉センターが出来ました。こんなに立派な建物になり、リフトもあって、当時と比べるとまるで天国のようです。(笑)

岩出療育園はセンターとして建て替え直前だった時代で、とても老朽化していた記憶があります。(岩出療育園は昭和44年に建設されたもので、日本で2番目に古い重心施設です)

### 5. 入職30年になられるということは、皆さんの大先輩ですね？

今回インタビューをして頂くことになったので、この機会に自分がどうあるべきか少し考えてみました。

それは、どの人に対してもしっかりと心構えを持って接するという事です。

自分が明確な考えを持っていてこそ、初めて相手にそれが伝わるのだと思います。





- ① まず後輩よりは長い人生を生きているので、圧倒的に多くを勉強しておくこと。
- ② 相手の価値観を理解すること。
- ③ 人それぞれ力量が違うので、あきらめずにかかわりを続けること。
- ④ 自分より経験の浅い人には、昔の自分だと思って接すること。
- ⑤ 相手を通して自分を理解すること。

要するに、コミュニケーション力が何よりも大切だと思います。私は周りの人から相談を受けることがよくありますが、そんな時は相手の気が晴れるまでしっかりと話を聞きます。というのは、全部のケースが結論を欲しているわけではないからです。

聞いてもらうことだけで気持ちが晴れる、というケースも多々あります。

## 6. ご趣味は何ですか？

料理が好きです。最近特に和食に凝っています。家には3匹の犬がいます。

## 7. 7月の和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホールの竣工式で和太鼓の峯本雄貴さんたちとセッション披露をお願いしておりますが、意気ごみのほどは、、、？

有難うございます。音楽活動は本当に楽しいです。私は篠笛（しのぶえ）を担当しています。以前に峯本さんたちの和太鼓グループのマネージャーをしていました。その時に篠笛をやってみないか、と声を掛けられ、もともとピアノをしていましたし、とにかく音楽が大好きなので、早速始めて見ることにしました。

お琴の演奏もします。津軽三味線の吉田兄弟と舞台上で共演していらっしゃる市川先生が私の師匠です。舞台上立つことは大変な事ですが、毎回特別な喜びと感動を憶えます。





#### 8. いつも陽気で笑顔がとても素敵ですが、何か秘訣はありますか？

職場でいつもにこにこしていると、周りから声を掛けやすく、質問もしやすいと思います。センターではいろいろな職種の方々とお仕事させて頂いていますが、チームで仕事が上手く行った時、通じ合っている！と感じた時、本当に気持ち良く、充実していると思います。音楽の合奏が上手くいった時も同じような気持ちの良さなんです！やはりコミュニケーションが一番大切ですね！

とても参考になるお話を有難うございました。

日々忙しく過ごしていると忘れがちな事ですが、笑顔で人に接すること、良い雰囲気を作ること、そして、先輩としての5箇条、ぜひ参考にさせて頂きたいです。

これからも素敵な笑顔で、和歌山つくし会を元気にしてください。よろしく願い致します！和歌山つくし会にプロ級の様々な特技を持った方々がいらっしゃることに驚いています。

坂本さん、和歌山乳児院 バンビーニ広場・つくしホール竣工式の和楽器合奏を楽しみにしております。



竣工間近の和歌山乳児院  
バンビーニ広場・つくしホール



# つくしっ子レポート！

## 広瀬幼保園 4年ぶりの「春の遠足！」

広瀬幼保園では令和5年4月に新入园児18名を迎えました。5月13日に各クラスの園児とその保護者、職員も参加して、4年ぶりとなる園全体での「春の遠足」を実施することができました。

和歌山城公園でスタンプラリーを行い、楽しみながらそれぞれのチェックポイントでシールを集めて回り、ゴール地点では園児も保護者も笑顔でとても喜んでくれました。

集めたシールがとてもかわいかったと大好評でした！！



もふもふ

つくしっ子ニュース！！



「3匹にゃんこと生きる!!」

つくし医療・福祉センター 事務部長

中谷政紀

私の家では昔から猫を飼っていました。物心がついたころ（だいぶ昔）からずっと猫がそばにいたので、家に猫がいることに何の違和感もなく当たり前だと感じています。

これまで飼っていた猫の長い歴史をたどってみると、いろんな「ツワモノ」の猫がいました。近所の犬を追いかけ、大型犬の背中に乗り爪を立て追い払っていた猫。軽トラの荷台に寝ていたがそのまま車が走り出し2キロほど走った後で飛び降り、2日ほどかけて帰ってきた猫。行方不明になってから6か月後ヨレヨレになって帰ってきた猫。人が散歩をするのを先導してくれた頭の良い猫。ウサギを狩ってきた猫等々・・・。

今は3匹の猫がいます。座ればすぐに膝の上に乗ってくる白と濃い茶色の「メロン♀16歳」、先ほどのウサギのエピソードに出てきたのはこの猫です。

優しい気性で手首が柔らかい、白と濃いグレーの「テンテン♀16歳」、この子は2本足立ちが得意技です。メロンとテンテンは私の家で生まれた姉妹です。

それから、人の腕枕で寝るのが好きな茶トラの「ブイズ♂7歳」、暴れん坊で甘えん坊です。インターホンが鳴ったら怒り出します。猫たちには本当に癒されます。みんなの長生きを願っています。



メロン16歳 テンテン16歳



ブイズ 7歳



3匹そろって・・・



## 編集後記「つくす」

令和5年5月17日に書道家でアーティストの金澤翔子さんに書いて頂いた和歌山つくし会の理念「つくす」が記された額が届きました。

金澤翔子さんは生まれてすぐにダウン症と診断を受け、5歳でお母様の指導のもと書道のお稽古を始められました。小学校ではたくさんのお友達と一緒にとても楽しい学校生活を送っていましたが、ある日、先生から特別学級に行くように言われ、大変無念の思いをされたそうです。

その時に般若心経の写経を始め、繰り返すうちに独特の書体を身につけられたということです。

金澤さんの迫力のある書は日本国内のみならず、海外でも絶賛され、お母様と二人三脚で各地で個展や書のライブ、講演なども行っておられます。

和歌山つくし会の理念に賛同して頂き、揮毫して頂いたこの書を眺めていると、心静かな中にも一本芯の通った力強さが感じられます。私たちもそのように強い心で「つくす」理念を持ち続けたいと思います。

令和5年6月 つくしジャーナル編集部



つくし医療・福祉センター4Fの役員会議室に掲示

## 訃 報

令和5年5月4日に和歌山つくし会の多機能型福祉事業所「つくしの里」で看護師として勤めておられた丸山かおりさんがご逝去されました。(享年44歳)

明るい笑顔と優しいお人柄で利用者さんや職員から慕われていました。

かおりさん、7年6ヵ月の間、素晴らしいお仕事をさせて頂きまして有難うございました。

職員一同、心から御礼申し上げますとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。